

松江市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 小泉八雲も惹かれた風情や伝統を有するまち。
- 少子高齢化の進展などにより、居住人口の減少、空き家の増加、事業所数、年間商品販売額等の減少等、地域コミュニティが弱体化し、にぎわいの減少、まちの魅力が低下。



○歩行者・自転車通行量の減少

(H7: 13,062人 → H19: 8,434人(▲35.4%)) (注)

(注) H7、19年ともに調査地点4カ所ベース

○小売販売額の減少

(H9: 546億円 → H16: 444億円(▲18.7%))

○居住人口の減少

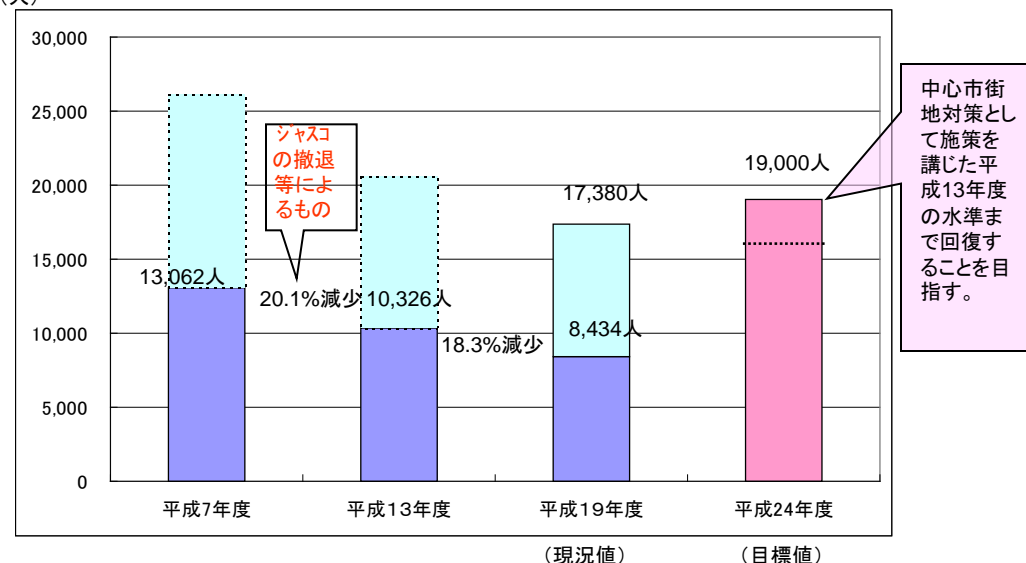
(H7: 18,201人 → H19: 15,713人(▲13.7%))

【目標】

目標	指標	現況値(H19年)	目標値(H24年)
観光・交流	年間観光入込客数	3,627千人	4,100千人 (13.0%増)
近隣集客拠点	歩行者・自転車通行量 (注)	17,380人	19,000人 (9.3%増)
まちなか居住	居住人口	15,713人	16,000人 (1.8%増)

(注) 現況値、目標値共調査地点8カ所ベース

通行量(歩行者・自転車)の推移と数値目標 ※平日・休日の通行量の合計 (人)



※平成7、13年度の点線部分は、平成19年度調査8カ所のデータを基にした推計値

中心市街地対策として施策を講じた平成13年度の水準まで回復することを目指す。

小泉八雲が住み戦後国際文化観光都市として認定され賑わった松江城城下町の街並みや宍道湖畔の景観を活かしつつ、まちなか居住の促進や近隣からの集客を図ることにより、かつての賑わいを取り戻す。

松江市中心市街地活性化基本計画の事業概要

都市福祉施設の整備及びまちなか居住の促進

○松江赤十字病院の建て替え

老朽化している同病院を現地で建替えを行うことで、本病院を核とした快適で安心な暮らしの創出等を図る。



イメージ図

○南殿町地区の市街地再開発

老朽化した密集地の敷地を共同で利用し、商業、住宅からなる中高層の建物に建替えることにより快適で安全な街への再生、居住機能の充実を図る。



イメージ図

○松江しんじ湖温泉駅周辺の整備

同駅前共同住宅、保育及び業務等の施設整備を行うことにより、都市機能の整備と共に、まちなか居住の促進を図る。

○まちなか居住の推進

住宅建設等に対する支援やまちづくり会社等が行うまちなか居住の推進につながる事業に支援する。

特定事業の推進

○Ruby City MATSUEプロジェクトの推進

松江発のプログラミング言語「Ruby」を核としたプロジェクトにより地域ブランド創成とIT産業の振興を目指す。

近隣集客拠点の形成によるまちの賑わいの創出

○商店街チャレンジショップ事業、空き店舗・空き床紹介事業
空き店舗で創業しようとする事業者に対する家賃補助や、インターネットで空き店舗情報の提供を行い商業地の賑わいを創出する。

○松江京店カラコcocolo Sunday, カラコ祭りの実施
毎月第2日曜日にファミリー層を対象としたイベントの開催や、春秋に商店街を中心に行い賑わいを創出する。

○核店舗との連携
松江サティと中心市街地との連携を強化し集客施設の核とする。



松江サティ

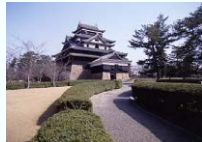


中心市街地区域：約403ha

観光・交流の促進

○松江城の修復・保全

市民のシンボルであり、憩いの場である松江城及びその周辺の伝統美観地区の修復・保全を行い、市民の交流の促進と観光資源の保全を図る。



松江城

○歴史資料館の開設

市民や観光客が松江の歴史・文化を学ぶ施設を整備する。



イメージ図

○しじみ館の開設

松江の名産である「しじみ」を中心としたセンターを開設し市民や観光客が楽しめるソフト事業を行う。



現状(名産センター)

○文化資源を活かした城下町再生

島根大学旧奥谷宿舎を再生すると共に、大学と市民が一体となったまちなかの回遊性の向上を図る事業を実施する。



現状(旧奥谷宿舎)